

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「読むこと」人物像や物語全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること、算数では「データの活用」示された情報を基に、必要な数値を読み取り基準値を超えるか判断する問題の平均正答率が低い。

○既習の漢字を正しく使う、主語や述語、修飾語など文を構成する要素の関係の理解や「これ」「それ」など指示代名詞が何を示すか理解する力が弱い。

○学習に興味や意欲をもって取り組む児童は多いが、問題解決に向けて根拠を基にしたり論理的に考えたりする活動や、自分の意見や考えを文章で表現する活動が苦手な児童が多い。

○自分の考えを言葉にして発表したり友達に伝えたりすることが進んで取り組む児童が多いが、話の中心を意識して聞くことに改善の余地がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○日々の授業の中で、課題解決のために、教科書を正しく読み解く必要感を十分に味わわせていない。

○児童が主体的に学習に取り組む時間や自力解決の時間が十分ではない。

○授業展開や主発問を精選し、児童が協働する時間を確保できるように指導を工夫する必要がある。

○児童同士が学び合いを高めていくために、交流の方法や話し合いの場を工夫する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

「わかる、できる、楽しい授業」

○児童の心を揺さぶる授業を実践していき、主体的に学ぶ意欲の向上と基礎基本の定着を図る。探究的な学習を重視する中で、解決への過程が学べるように授業を工夫する。

「学び合う力の育成」

○児童同士が協働する場を設定することで、互いに多様性を認め合い対話によるウェル・ビーイングの社会を築くための素地を醸成する。

「一人一台タブレットの活用」

○児童の学習到達度に合わせた個別の指導を行う。また、児童自身が学習の最適化を目的としたタブレットの活用方法を見出し、いけるよう実践をしていく。

「保幼小接続・小中一貫教育」

○幼稚園から中学校まで12年間の発達段階に応じた系統的かつ効果的な指導を行うために、幼小中全ての校種の教職員が協力して切れ目のない教育を実践に取り組む。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○児童の基礎学力の定着・向上を目指し、「わかる、できる、楽しい授業」を実践する。表現することまでを含めた明確なめあての設定、ノートを活用した自力解決、協働学習の集団解決、児童の考えを生かしたまとめ、めあてに即した振り返りを実践する。	○読みのつまずきや基礎的な読む力の実態を把握し、基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書などを正しく読めるようにする。 ○INPUT・THINK・OUTPUTの学習過程を意識して授業展開を行う。音読・視写・共書き・読書等、「読み解く力」の育成につながる日常的な取組を行う。	○横断的・総合的な学習やプロセスを重視した探究的な学習を行い、自分たちにできることを考え、実践できる力を育成する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○身近な環境や自然へ親しみがもてるように、環境教育に重点を置いた探究的な体験学習を実践する。ESDと関連させながら、地球温暖化、ごみ問題、脱炭素社会などの地球環境の保全に関心を高め、SDGsの視点を取り入れた持続可能な取組が行えるようにする。	○「単元配列表」を基に、全教科で相互の関連付けや横断を図り、各教科等の内容と児童が身に付けてほしい資質・能力を高める。 ○児童の実態を受けて、学習内容を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを行っていく。	○一人一台端末を用い、情報の収集・整理・分析を行い、情報活用能力の育成を図る。また、友達との意見の交流や共有する場面で活用する。さらに、写真や音声、動画などの制作を行い、学習方法や表現方法の質を向上させる。